

2012年1月27日

## 赤い羽根「災害ボランティア・NPO 活動サポート募金」

### 第5回助成決定にあたって

赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」（以下、「ボラサポ」と略）の第5次の助成先を決める配分委員会（第6回）を開催しました。

基本的には、応募要項ならびに本ホームページ掲載の「（第1回から第4回までの）助成決定にあたって」の考え方に沿いながら、審査しました。

以下に、今回の応募案件の審査過程で検討した事項について整理し、助成先の選考にあたっての考え方をまとめました。

#### 1. 第5次の応募状況等と助成決定状況

##### (1) 応募状況

昨年10月10日から11月30日を受付期間とした第5次募集は、1か月未満の「短期活動」は、181件・5,830万円、1か月以上の「中長期活動」では、184件・4億6,297万円の応募がありました（合計：365件・5億2,127万円）。

##### (2) 全般的な傾向

第5次応募締切の2011年11月末は、震災から8か月余りが経過したことで、震災直後と比較して応募内容も新たな段階に進んでいる様子が伺えました。被災地では、市町村で、あるいは県内で、多様な団体により重層的なネットワークづくりが進んでいます。いずれも時間の経過とともに新たに出てきた課題に対して関係者がつながり合って、知恵や企画を出し合い、活動の創出にあたってきたことが応募書から推察されます。こうした多数の応募に敬意を表します。

具体的には、このような応募内容が目立ちました。

- ①避難先における活動も含め、被災した当事者の方がた自身が立ち上がり、たとえば仮設住宅地域におけるサロン開設など、新しく暮らす場となった地域で新たなコミュニティづくりに立ち向かう活動や、もともとの暮らしの場であったコミュニティの再興に向けた活動
- ②子育て支援、児童・生徒の学習支援、専門職によるカウンセリング、復興に向けた市民参加型のまちづくり計画策定など、テーマ型の活動
- ③人間としての尊厳の回復を可能とする自立に向けた「仕事づくり」につながる活動
- ④県外避難者へのもてなしや避難者同士の交流促進などの活動

これらの活動についての応募は次回以降も増えることが想像されます。また、こうした活動の重要性は疑いの余地がないところです。

一方で、民間アパートなど「みなし仮設」に入居している被災した方がたとのコミュニケーションやサービス提供など、課題やニーズが表れにくいケースに対する活動も始まっていることは特筆すべきことと考えます。

##### (3) 選考結果

今回の第5次応募の選考の結果、「短期活動」では、163件・4,239万円。「中長期活動」では、144件・3億85万円の助成を決定しました（合計：307件・3億4,324万円）

##### (4) 審査の際の検討事項

今回は、これまで4回の応募内容では見られなかった、県外避難者が避難先から被災地へ帰省して交流するイベントをコーディネートする活動がありました。この際の被災地への移動のために団体がバスをチャーターする経費については、団体のプログラムに対する活動費として

助成対象とすることにしました（被災者個人の旅費については助成対象としません）。

#### (5) ボランティア団体による放射線除染活動について

前回に引き続き、今回もボランティアによる除染活動の応募がありました。行政からの委託等による事業者による除染が行われているとは言え、住民からの需要に対しては除染作業が追いついていない現状です。そしてその部分を実際に担っているのがボランティア団体であり、そうした団体からボラサポに応募が寄せられていることを痛切に認識しています。

一方、除染作業に関わることの安全性や問題点等は十分整理されているとは言えません。現在、国においては環境省から除染関係のガイドラインが出されていますが、これが一つの指標となるだろうと考えています。

本助成事業においては、本来除染活動はボランティア活動で対応するものではなく、国等が対応することが望ましいということをお考えの基本とします。その上で、ボランティアの活動がやむを得ず必要である場合にのみ、助成の対象とすべきかについて検討します。

その際にも、ボランティア団体側が、最低限の安全管理ができていることをその条件とするため、まずは環境省のガイドラインを踏まえ、実際に活動する上で配慮すべき条件について、様々な関係者と議論の上で定めることとし、引き続き配分委員会で協議を行います。

そのため、今回応募があった活動についても助成を見送り、次回以降にその判断を示すものとします。

#### (6) その他

その他、第4次の助成決定時に論点となった部分は引き続き同じ傾向が見られました。

なお、事務局による事前ヒアリングなどで、応募書に記入されている活動を行う際の連携団体に確認したところ、全く知らないとのお答えがあったケースがありました。日常的なコミュニケーションをはじめ、応募内容について連携団体とはご相談のうえでの応募をお願いします。

## 2. 助成期間の延長、第7次以降のプログラムの変更について

これまでの応募状況、活動団体から寄せられる声、さらには事務局による現地活動団体へのヒアリング結果等を受け、当委員会および運営委員会において協議を重ねました。その結果、第7次以降の方針について以下のようにまとめましたのでご覧ください。

なお、詳細は2月13日(月)(予定)にホームページで公表する新応募要項でご案内します。

これからも、ボラサポは、できるだけ長くみなさんの活動を応援することを通じて、被災地の復興に寄与していきます。

#### (1) 助成期間の延長について

- ① 現行の平成25(2013)年3月までの助成期間を、平成27(2015)年3月まで2年間延長します。
- ② ボラサポの助成財源は、すべてみなさまからの寄付金です。目標額50億円に対し、現時点での寄付額は約31億円。今回の第5次までにこのうち約15億6千万円を助成決定しました。  
今後の助成規模は、ボラサポへの寄付状況によって大きく変化します。これまでと変わらぬ規模で助成を続けていくためにも、寄付およびその呼びかけのご協力をよろしくをお願いします。
- ③ 第7次以降は、年間に4回(3月・6月・9月・12月)応募を受け付けます。

#### (2) 助成プログラムの変更について

現地で活動する団体からのヒアリング結果から、以下の声が聞かれました

- ・手持ち資金に余裕がないと、安心して活動を始めづらい。助成決定時にある程度資金があるようにしてほしい。
- ・長期の活動を安定的に行うためには、一定程度の資金の見通しがほしい。そのため、複数年での助成のしくみがあるとよい。

これらの資金ニーズを支援するため、現行の中長期プログラムを一部変更します。

①短期活動 :50万円以内(現行と同様)

②中長期活動:300万円以内(現行と同様)

ア. 応募額が100万円以内であって、一定の条件を満たす団体については、助成決定金額全額の一括送金を可能とします。(新規)

イ. 1回の応募額の上限は300万円ですが、一定の条件を満たす団体については1000万円までの応募を可能とします。(新規)

※条件等については新しい応募要項でお知らせします。

ボラサポを通じて被災地への一層のご支援をお願いします。

赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」  
配分委員会 委員長 山崎美貴子